

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:19～20.

新卒者の看護過程展開における指導内容のニーズ

植山さゆり、大橋舞子、原口眞紀子、伊藤廣美

新卒者の看護過程展開における指導内容のニーズ

○植山さゆり¹⁾、大橋 舞子¹⁾、原口眞紀子¹⁾、伊藤 廣美¹⁾

¹⁾旭川医科大学病院 看護部教育担当

I. 問題の背景と目的

A大学病院では、新卒者に対し、看護診断の基礎知識の習得を重視した集合研修を実施している。研修後も、看護過程に関する研修の要望が多く、教育担当専任の看護師2名が個別に病棟で実践に即した指導を試みた。今回、病棟で実施した看護過程の指導内容を振り返り、新卒者の指導内容のニーズを明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

1. 対象：3部署の新卒者13名
2. 指導期間：平成20年10月～11月
3. 指導時間は60分、予約制とした。
4. 指導内容のニーズの把握方法
 - 1) 指導内容のニーズは6段階の看護過程の要素で構成された10項目とし、選択式とした。指導前に、対象者に選択してもらい、その項目に沿って指導を行った。
 - 2) 指導者は指導後、10項目の指導内容のニーズと、実際に指導した内容を具体化した用紙に記述式で記録した（以下フィードバックシート）。

3) フィードバックシートから以下の内容を抽出した。

①新卒者が希望した指導項目と指導者が指導した指導項目と実施状況

②指導実施時間

3. データ分析

1) 新卒者が希望した指導項目と指導者が指導した指導項目と実施状況

2) 指導項目別の指導・助言と支持のカテゴリー化と件数

5. 倫理的配慮：対象となる指導内容から指導を受けた新卒者の個人が特定されることなく、プライバシーが確保できるように配慮した。またフィードバックシートはデータ収集後、破棄した。

III. 結果

1. 指導実施時間：30～90分、平均時間69.64分
2. 新卒者が希望した指導項目と指導者が指導した指導項目と実施状況（表1）
3. 指導項目別の指導・助言と支持のカテゴリー化と件数（表2）

表1 新卒者が希望した指導項目と指導者が指導した指導項目と実施状況

n=13

6段階の看護過程の要素	指導項目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
アセスメント	アセスメントデータベース聴取	◎	—	◎	—	◎	—	◎	—	—	—	—	—	◎
	データ・情報の分類	—	◎	—	◎	×	◎	—	◎	●	◎	◎	●	—
	データ・情報のアセスメントと診断候補	—	◎	—	◎	—	◎	—	◎	●	◎	◎	●	—
	全体像の描写	—	◎	—	◎	—	—	—	◎	◎	◎	◎	—	◎
看護診断	看護問題と強みを特定し診断概念と結びつける	—	●	—	●	—	—	—	—	◎	—	—	—	—
	看護診断	◎	◎	—	◎	—	—	—	×	—	×	—	×	—
アウトカム設定	NOC(看護成果分類)	◎	◎	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計画立案	NIC(看護介入分類)	◎	◎	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—
実施	実施	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
評価	評価	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

指導希望があり、実施もできた：◎ 指導希望があったが、実施できなかった：× 指導希望はなかったが、指導した：●
指導希望がなく、実施していない：—

表 2 指導項目別の指導・助言と支持のカテゴリー化と件数

指導項目(人数)	指導・助言のカテゴリー(件数)	支持のカテゴリー(件数)
アセスメントデータベース聴取 計/5名	自由回答方式の質問方法(3) 面接時の態度(3) 患者への集中(2) 非言語的コミュニケーション方法(2) 関連付けた情報収集(2) 状況に応じた情報収集(1) 専門用語ではなくわかりやすい言葉の表現(1) 聴取時間(1) 患者把握のための必要な情報収集(1) 事前の質問内容の整理(1) 主な問題の確認(1) 特定領域への質問の仕方(1) 計/19	必要なデータの聴取(4) 一部関連情報を得るための質問(2) 丁寧な言葉使い(1) 患者のペースに合わせた話の聴き方(1) 聴取内容の要約(1) 患者の理解度の確認(1) 看護ケアの説明(1) 計/11
データ・情報の分類 計/8名	不足しているデータの確認(8) 聴取しているデータの活用(7) データ・情報の分類の仕方(7) データ間の関連(1) 計/16	
データ・情報のアセスメントと診断候補 計/8名	具体的なアセスメント内容(8) 介入とアセスメントの違い(4) アセスメントの視点(3) 領域毎のアセスメント(1) アセスメントする上での理論、病態の理解(2) 計/16	
全体像描写 計/6名	領域間の関連づけ(6) 全体像の表現方法(4) 情報と全体像(1) 計/11	
看護問題と強みを特定し診断概念と結びつける 計/3名	診断概念の特定(3) 計/3	
看護診断 計/3名	診断の定義との照合(3) 診断指標と関連因子との照合(2) 看護診断の適切性(1) 看護診断のタイプ(1) 計/7	
NOC(看護成果分類) 計/2名	診断指標と看護目標の関連(1) 現在値の設定(1) 看護成果の選択と具体的内容(1) 計/3	看護成果の選択と具体的内容(1)
N I C(看護介入分類) 計/2名	関連因子と看護介入の関連(1) 看護介入の選択と具体的な内容(1) 計/2	看護介入の選択と具体的な内容(1)

IV. 考察

新卒者の看護師が希望する指導内容を6段階の看護過程の要素から構成された10項目を提示することで、具体的なニーズが明らかになった。

6段階の看護過程要素の「アセスメント」「看護診断」の指導ニーズが高い。具体的なニーズの内容は、「アセスメントデータベース聴取」が5名、「データ・情報の分類」から「看護診断」までいずれかの指導を受けた人が9名と二分されていた。「NOC」と「NIC」については3名の指導ニーズで、「実施」「評価」の指導ニーズは無く、看護診断までの指導ニーズが高いことが明らかとなった。A大学病院では、卒後1日は看護診断の基礎知識を重視し、診断プロセスを重視した研修を行っており、このことが要因となっていることが推察される。また、「実施」「評価」については、入職後6～7ヶ月の新卒者にとっては、次の段階で学ぶこととして捉えていることが考えられる。

指導・助言・支持のカテゴリーからは、「アセスメントデータベース聴取」では、面接の質問方法、面接時の態度など、基本的なコミュニケーション技法の実践についての指導・助言のニーズが高かった。また、対象者が準備したデータ聴取の具体的な内容についての支持のニーズがあった。指導ニーズが高い背景として「アセスメントデータベース聴取」は、講義のみでは身につけられず、日々のトレーニングで養い、向上できる内容であるためと考える。「データ・情報の分類」では、不足している

データの確認と聴取したデータの活用、データ・情報の分類の仕方、の指導ニーズが高かった。「データ・情報のアセスメントと看護診断候補」では、具体的なアセスメントの内容や、看護介入とアセスメントの違い、アセスメントの視点などの指導ニーズが高かった。「全体像」では、領域間の関連づけや表現方法、「看護診断」では、診断ラベルの定義、診断指標と関連因子との照合についての指導ニーズが高かった。このように、指導内容のニーズは多岐に渡っているが、いずれも集合研修で実施されている内容であり、看護過程を展開するうえでの基本的な重要な項目である。新卒者は、看護過程を展開するうえで、これらの基本的要素を習得することが必要であることを認識しているため、ニーズが高いと言える。

V. 結論

新卒者の看護師の指導ニーズは、「アセスメント」「看護診断」までのニーズが高い。また、指導ニーズは、「アセスメントデータベース聴取」と「データ・情報の分類」から「看護診断」に2分される。

【参考文献】

- 1) 藤内美保：新人看護師の臨床判断プロセスの概一健康歴聴取場面におけるケア決定までの判断一，日本看護研究学会雑誌，31（5），2008.